

関東地方にも「梅雨入り！」の声、間もなく聞こえてきそうな空模様ですが、ここのところの不安定な気候で、体調不良を起こす子ども達が 増えていますので、保護者の皆様も含め、くれぐれもご自愛ください。新年度が始まって2か月が経ち、心身共に 疲れを感じる時期でもあります。保育園では、全職員がひとりひとりのコンディションに合わせ、無理のないように過ごしていますが、些細と感じられることでも、気にかかることやお家での様子など、どのスタッフでも構いませんので、お伝えくださるよう、お願い致します。個人面談なども、随時、受け付けております。気軽に、お声をかけて頂ければ幸いです。ぜひ、良い機会として、ご活用ください。

さて、先週の金曜日に、2階のホールでの全体礼拝（幼児クラス）を久しぶりに行いました。旧約聖書 第1頁の「創世記」から、新約聖書の出来事までを、順番に子ども達が、わかりやすく聞けるよう、物語風に、ちょっぴりアレンジをしながら、週に1度、1年をかけて語っていきますが、毎年、夢中で聞き入り、楽しみにして、待っていてくれることは語り手としてほんとうに嬉しく、毎回、力を与えられます。礼拝は、普段、遊んでいるホールを、礼拝堂に、様変わりさせて行きます。そのため、子ども達はまず、もう一つの保育室（いるか組）に集合し、それぞれが、心を鎮め、礼拝に臨む前の準備をします。身だしなみも、鏡を見たり、互いで確認し合ったり、神様が待っている礼拝堂へ向かうための気持ちを整えられたら、静かに入場します。らっこ組は、前年度、ねこ組での経験がないので、いるか組と、こあら組をお手本に見よう、見まねの姿から、礼拝への意識が、自覚へと、少しずつ変えられていきます。

2日（金）は、1回目の「天地創造」の出来事に続いて、初めて、つくられた人間「アダムとエバ」の出来事でした。今年度2回目の全体礼拝でしたが、子ども達は、とても楽しみにしているようで、皆、嬉しそうに、明るい笑顔で入場してきました。ところが… どうしたことでしょう…！

最年長のいるか組の子ども達が、着席した途端に、大きな声でおしゃべりをし始め、らっこ組や、こあら組の子ども達にまで、いろいろと、話しかけたりしていました。「久しぶりの礼拝で、忘れちゃったのかな？」と一瞬、驚きましたが、子ども達は、ずっと、ご機嫌な様子でおしゃべりを続けていました。そこで、私も気を取り直し、ピアノを中断して、声をかけました「あれ？ 今から何を始めるのか、何のためにここに入って来たのかを、すっかり忘れちゃった人達がいるようです」私の声に一瞬、ホールの中が静まり返りました。ハッとした様子で、じっと私の顔を見入る、いるか組の子ども達に向かって「はい、今、おしゃべりしたり、ふざけちゃったりした人達は、もう一度、向こうのお部屋に戻って、心を、整え直して来てください。」その言葉に、更に、青ざめた顔を引きつらせ、呆然としている、何人かの、いるか組。そこで、もう一度、繰り返しました。「おしゃべりしていたこと、自分でわかると思うんだけどな。心の準備が出来ていないのに、礼拝は始められませんよ。自分で考えて、あ！ そうだったなと気付いた人は、戻って整えてきてね。待ってるから。」シーンとした部屋に、緊張感が、漂いました。（マズイ…）（やっちゃった…）と、いるか組の子ども達の、心の声が聞こえてくるようでした。その時です、カタッと音がして、かすみちゃんが立ち上がりました。真一文字の口元、瞳は潤んでいます。その姿に、りくと君、しおん君、さきちゃん…などなど、次々に、立ち上がりました。また、らっこ組の、ゆのちゃんも、さっと、かすみちゃんの後ろについて行きました。

すると「ぼくもおしゃべりしちゃった!」「ぼくもふざけた…」と続いたのはこあら組らっこ組の3人の男の子! いるか組の部屋へ一緒に戻って行きました。私は、ホールに残っている子ども達に「ちょっとお話をしてくるから待っててね」と言い、戻った子ども達の様子を見に扉の近くへそっと近づきました。すると…。先生がいない部屋で子ども達がひとつに集まり「どうする?」「並ぶしかない」と話し合っている声がしました。そして、並び方がわからずにもそもそしているらっこ組とこあら組の3人の男の子の肩を順番に優しく叩いたりくとくんがひとりひとりに話しかけながら「あのさ、いるかさんが小さいクラスの子の間にいるから、いい?」と顔をのぞいています。他のみんなも「そうだね」「うん!」と元気よくうなずいています。そこへ、私が入っていくと、その瞬間皆の顔がピッと硬直しました。(後から聞いたのですが、叱られちゃうと思ったそうです)「みんな、自分で考えて自分で戻って来られたことは、とっても素敵だったよ!」「とくに、かすみちゃん!1番に立ち上がるのは勇気がいることだったでしょ。すごく立派な心だと思ったよ。」「そして、みんなも。あ、いけなかったなってかすみちゃんの姿を見て、やり直そうってここに帰ってきたことは素敵な心だと私はそう感じました。何よりも神様が喜んでいてと思います!」その言葉に皆がにっこりとなりました。そして「じゃ、私はホールへ先に戻ってピアノを弾くので後から、しっかりと心の準備をして皆で並んで入場してきてね。できるかな?」と一人一人の笑顔を見ながら訪ねると、大きくうなずいて「大丈夫!」と元気な返事が返ってきました。ホールに戻り、待っていた子ども達に皆の様子を報告しピアノを弾き始めると、1列になって胸を張り誇らしげに入場してきました。全員が揃って着席した時、私は皆の前に立ち、改めて今の出来事について自分の考えや感じたことを伝えたいと一人一人の顔を見つめてゆっくりと語りました。

- ・礼拝なのに、大きな声でしゃべったりふざけたりしてしまったことは失敗。
- ・でも、それがいけなかったと自分で考えてやり直すために戻った。これは「反省」と言って、自分の心を振り返れたこと、これこそ人として最も大事。
- ・特に、私から注意をされてシーンとしていた中で、最初に勇気を持ってがんばって立ち上がったかすみちゃんの心は、ものすごく立派だったと思う。
- ・そしてその姿を見て後に続いて一緒に戻った皆も素敵な心だったと思う。
- ・今日は失敗しっちゃったけど、すぐやり直せた。これは失敗じゃなくなった。
- ・ここに入る前に、皆で話し合っって小さい子を想ったことも素晴らしかった。
- ・素直な心を持っている皆を神様は今ものすごく喜ばれていると思う。

「私は大人だけど、失敗も間違えちゃうことも、しょっちゅうあるんだよ」と、失敗の経験や子どもの頃叱られるのが怖くて隠そうとした思い出を話すと、皆は驚きながらも「え〜!先生もなんだ〜」とほっとしたように笑っていました。

「人間は完璧ではないから、誰でも、どんな人でも失敗はしちゃうもの。でも人として大事なものは、今日の皆の心=素直と勇気だよ。」と伝え皆で祈りました。

「今の気持ちは?」の私の問いに「なんかすっきりしてる」と答えた子ども達。全体礼拝の前に子ども達が自分の心を省みることが出来た、心温まるひと時を共に過ごせたことに心から感謝です。年長組としての皆の心の成長にも感動でした。

「幸いなのは、神のことばを聞いて それを守る人たちです。(ルカ11:28)」(石田 記)